

最上町サステイナブルタウンプロジェクト

施策のポイント

住民の暮らしの中で最も身近で豊富に存在する「森林資源」を環境問題対策と産業振興、文化振興の両面から活用を図るため「薪文化」に着目しエネルギーや食の安全・安心、住環境の向上を目標に、担い手の育成とシステム構築に向けた実験を住民参加と産学官連携のもとで行う。

自治体情報

山形県 最上町

人口 / 10,241人

標準財政規模 / 3,666,243千円

担当課 総務課まちづくり推進室

電話番号 直通 0233-43-2261 代表 0233-43-2111 内線 263

実施主体 最上町サステイナブルタウン推進協議会

関連ホームページ <http://mogami.tv>

事業期間 平成 21 年度

参考とした施策 長野県飯田市環境政策等

関係施策分類

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

本町は、豊富な森林資源に恵まれており、かつては、その森林資源によって生計を立てながら自然と共生する生活文化が存在していた。中でも「薪」や「炭」などのエネルギーは山村集落の重要な産業であり、また里山保全においても極めて重要な役割を果たしていたが、現在は多くの森林が未活用となっている。

しかし、近年最新の技術により薪がエネルギーとして活用されている事例が多くみられるよう、森林資源を活用したエネルギーが再び脚光を浴びてきており、本町においても木質バイオマスプロジェクトに取り組んでいる。

本プロジェクトは森林と共生するエネルギーのリサイクルシステムを再構築し、新たな地域雇用の創出を構想とするものである。

2 取り組みの具体的内容

- 薪の供給システムの開発、普及に向けた調査・実験
意欲的な事業所等をモデル指定し、里山から伐採、配達、燃料使用までのシステムの開発を展開する。
- 薪等の木質バイオマスエネルギーを導入した最上町版木造エコ住宅の開発
地域材と薪やチップといった木質バイオマスエネルギーを組み入れ大学と住宅関連事業者との共同によるプロジェクトを展開する。
- 環境と観光との連携による交流体験モニターの実施
- 薪文化再生創出セミナーの開催

平成 21 年度地方元気府立事業 薪文化再生！最上町サステイナブルタウンプロジェクト ～品の良質を生かした連携と産学と文化の持続可能な連携づくり～		報告書 要約編
1. 実施主体 最上町サステイナブルタウン推進協議会		
2. 取組内容 (1) 薪のデリバリーシステムの開発・普及に向けた調査・実験		
① 薪等のエネルギーに関するニーズ調査		
取組内容	評価と課題	
全県等を対象、産学連携や薪等のエネルギー、住環境向上に関するアンケート調査を実施。回収数 34、回答率 88.1% (1072 件)	産学連携や木質エネルギーの活用等に関心が高いが、薪文化再生に向けた具体的なニーズがあることを確認した。	
② モデル集落におけるワークショップ活動		
取組内容	評価と課題	
産学調査を経て「薪炭(炭)のモデル指定、地域資源の掘り起こしと持続可能な集落経営をテーマに、産学連携のワークショップを実施。	薪炭、水、温泉を地域資源の象徴として、集落づくりを活用するほか、エネルギーの自立を目指し取り組みを促進していくことを確認。	
③ 薪の供給システムに向けた実験		
取組内容	評価と課題	
薪の生産コスト及び販売価格の設定に向けた調査・実験を実施し、課題を明らかにした。	支協的な標準価格での生産・販売が可能であること、作業員の不足等の課題解決コスト削減につながる可能性があることを確認。	
④ 薪等の木質バイオマスエネルギーを導入した最上町版木造エコ住宅の開発		
① エコ住宅セミナー(欧州最新技術セミナー)の開催		
取組内容	評価と課題	
町内の建築関係事業者を対象に、エコ住宅の普及に向けた意識啓蒙の開催と、かつワークショップを実施し、意見交換を行った。2 日開催。	エコ住宅に対する理解が得られたが、特に地味材の活用について産学連携を促すことと関係店にむけて関係店を促すことが確認された。	
② 最上町版エコ住宅の指針策定		
取組内容	評価と課題	
町内各集落における住環境の現状調査と、ニーズ調査の結果をもとに、エコ住宅の指針を策定し、モデルプランを提示した。	産学連携を活用したエコ住宅の普及という方向性が確認できた。また普及には建築だけでなく改修を促す必要があることを確認。	
③ 薪のエネルギー&スローライフツアーのプログラム開発及び体験モニターの実施		
① 産学連携プログラムに関するニーズ調査の実施		
取組内容	評価と課題	
町内の建築関係事業者を対象に、エコ住宅の普及に向けた意識啓蒙の開催と、かつワークショップを実施し、意見交換を行った。2 日開催。	産学連携を活用したエコ住宅の普及という方向性が確認できた。また普及には建築だけでなく改修を促す必要があることを確認。	

② ホームページ開設		
取組内容	評価と課題	
町民協会のホームページに「薪のエネルギー&スローライフツアー」のコンテンツを開設した。	アクセス件数が 40 件あり、閲覧者が少ないが、今後、コンテンツの充実をとおして件数を増やしていく。	
③ 体験モニターツアーの実施		
取組内容	評価と課題	
「薪のエネルギー&スローライフ」の商品メニューのもと、最上町産品やグループ体験等を 2 泊 3 日で行った。参加者の関係者等も参加した。	産学連携をターゲットにした商品にむけて、費用や日程、日程、事前のフォローアップ、インフラツアーの検討等について、産学連携を促すことと関係店にむけて関係店を促すことが確認された。	
④ 旅行関係者への商品の売り込み		
取組内容	評価と課題	
2 泊 3 日で行った。参加者関係者の旅行業者 15 社を訪問し、体験ツアー等の商品の紹介を行った。	旅行業者の間でも、産学連携の商品メニューがビジネスモデルとして確立されていないことが判明。産学、産品の信頼を維持するためのモデルツアーに向けた開発が必要とされる。	
(3) 薪文化再生！サステイナブルタウン創出セミナーの実施		
① 意見交換及び薪ストーブクラブ結成		
取組内容	評価と課題	
産学連携や薪等のエネルギーに関する意見交換の開催に、産学連携活動がある生活者を中心とした「薪文化再生(薪)のネットワーク」をとおして、薪ストーブクラブ結成に向けた条件整備を行った。	薪のある生活」ということで、産学連携や産学連携活動を通じて、今後エコライフスタイルにおいて薪文化再生(薪)のネットワークをとおして、薪ストーブクラブ結成に向けた条件整備を行った。	
② 先進事例調査		
取組内容	評価と課題	
長野県飯田市・長野県、山形県最上町の 3 町村を産学、産学連携を主眼に産学連携教育、産学連携に関する調査を行った。調査員 13 人。	3 市町の先進的な政策事例に加え、そのほかの産学連携事例も参考に、産学連携を促すことと関係店にむけて関係店を促すことが確認された。	
③ 薪のあふくるし集及び産学連携		
取組内容	評価と課題	
林業と産学連携、観光、文化を連携するテーマでワークショップを実施。参加者 13 名。産学連携(あふくるし集)を開催し、薪文化再生に向けた産学連携を行った。	産学連携の発展に意欲的向上がみられた。また、産学連携の発展に意欲的向上がみられた。産学連携の発展に意欲的向上がみられた。産学連携の発展に意欲的向上がみられた。	
2. 平成 22 年度以降にむけた取組課題		
(1) 薪デリバリーシステムモデルプランの策定及び実証実験の実施		
(2) 最上町版エコ住宅の普及		
(3) モデル集落の継続		
(4) サステイナブルタウンアカデミー研究員の配置		

3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

- (1) 薪供給に向けた薪の生産体制と供給体制の確立並びに薪供給取り組み団体の育成法人化
- (2) 最上町エコ住宅のモデルプラン開発
- (3) 自然体験交流プログラムの開発

4 現在までの実績・成果

- (1) 薪等のエネルギーに関するニーズ調査の実施
- (2) 最上町版エコ住宅の普及促進にむけた検討
- (3) 自然環境活動と観光旅行業との提携による新たな自然体験交流プログラムの検討
- (4) 薪文化再生創出セミナーの開催並びに薪ストーククラブの結成

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

関係機関との横断的な連携による事業であるため、関係各課及び機関との調整作業に時間を要した。

6 今後の展開と課題

- (1) 薪の生産者と流通者、消費者が一体となり普及啓発が必要である。
- (2) エコ住宅の普及促進にむけた建築業者の技術研修モデルハウス展示会等が必要である。
- (3) インストラクターなどの人材の発掘や育成が必要である。



予算関連データ

総額 ①～⑤の計		財源内訳 (財源区分: ①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
7,680 千円		7,680 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
①～④の名称、 所管など	名称	地方の元気再生推進 調査事業委託金				/
	所管	林野庁				
	金額	7,680 千円				
	補助率					

提供可能資料：最上町サステナブルタウンプロジェクト報告書要約編等